

## 情報化の進む世界

東京国際大学教授 高橋 宏

### 1. コンピュータの発達と情報社会

今日、私たちの暮らしの中では、コンピュータがさまざまなに利用され、コンピュータなしでは現在の生活の便利さを維持することが困難であるといっても過言ではない。しかも今日のコンピュータ利用はパソコンに止まらず、コンピュータの機能がさまざまな機械や道具に組み込まれているところに特徴がある。

また「情報社会」とは、大量の情報がコンピュータにより迅速に処理され、さまざまな通信メディアを通じて広く伝達される社会をいう。現代の社会では、経済活動などが多様化を進め、情報の果たす役割がますます大きくなっている。また情報それ自体も、多くの媒体を通じて伝達されている。さらに、情報の処理能力や利用のあり方などもコンピュータの発達・普及により大きな変化を遂げつつある。その結果、情報社会では「情報の生産と伝達など」がますます役割を増大させている。

### 2. ネットワーク化の進展

このようなコンピュータの発達と情報化の歴史の中で、もう一つの重要な動向がインターネットにみられる「ネットワーク化」である。インターネットは、異なった種類のコンピュータ同士を「集中管理方式」ではなく、「分散方式」で相互に接続し、誰もが自由にそこに加わることができる仕組みである。

今日の「ネットワーク化」の特徴は、「ネットワーク同士のネットワーク＝インターネット」として実現されているところにある。つまり、サーバとパソコンからなるネットワーク相互の開かれた接続としての「インターネット」となっている。

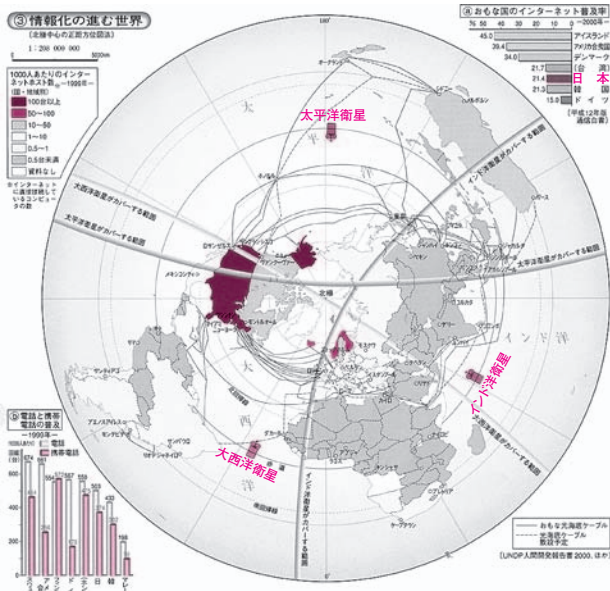
ここで、インターネットの普及状況をみるために『新詳高等地図』p.6に記載されている「インターネットのホスト数」を取り上げてみよう。この図は1000人あたりのインターネットホスト数を示しているが、世界では先進地域での普及率が圧倒的に高いことが分かる。また、「おもな国のインターネット普及率」によるとアメリカやアイスランドに比較して、日本やドイツは比較的少なく、韓国・台湾などと同じ水準にあることも分かる。

### 3. 情報通信の発達とIT化

「情報社会」では、情報伝達は通信と密接な関係をもって行われる。つまり、単に情報技術の役割だけでなく、情報を伝達する通信の役割も大きくなる。その意味で、情報社会では「情報通信技術」の革新が重要となる。

ところで、地図帳p.6の図によると、現在、世界各国の通信を担っている3つの通信衛星、「太平洋衛星」「大西洋衛星」「インド洋衛星」によって地球上のほぼ全体の通信が電波により可能となっている。

また、同じ図で、光通信ケーブルも世界の各大陸・地域を繋ぐ重要な役割を果たしていることが分かる。さらに、電話ならびに携帯電話の普及率をみると、パソコン以上に、デジタル携帯電話の役割が期待されている。現在の若い人たちの多くは、パソコンからインターネットに接続するよりも「ケータイ」で専用のHPにアクセスして必要な情報を入手する傾向が強い。パソコンからのインターネット接続にほとんど縁のない若い人々が、「ケータイ」を通じて、インターネットとの繋がりを持つようになったということは、これからのネット社会のあり方を考えるときに重要な意味を



帝国書院版「新詳高等地図 最新版」p.6「情報化の進む世界」

もっていると考えられる。

#### 4. 情報化のもたらす社会の変化・暮らしへの影響

私たちの暮らしについて言えば、「ユビキタス・コンピューティング」が注目されている。「ユビキタス」とは「どこにでもある」という意味であり、つまり「どこにもコンピュータがある」ということになる。コンピュータが、日常生活のさまざまなところで機能を果たしているのだが、使用する人間はその存在に格別の意識をしなくてコンピュータの便利さを享受している。

このユビキタスの下では、たとえばマイクロプロセッサとしてのコンピュータが多く家電製品に組み込まれ、それらのコンピュータ同士を接続することにより生活を便利にまた快適なものにすることが期待されている。具体的には、仕事先から帰宅するときに携帯電話からインターネットを通じて前もって自宅のエアコン・スイッチを入れたり、風呂の湯を沸かしたりすることができる。さらに、電気ポットに組み込まれたコンピュータによって、遠くに住む老親の生活状況などを把握することもできる。つまり、いつもと同様

にお湯が使われていれば元気な証拠だが、家にはいるはずなのに全くお湯が使われていなければ、何かあったのかということが遠くの家族にも判る。

#### 5. 情報化の課題

情報社会の到来は、私たちにより結果だけをもたらすものではなく、悪い影響や解決すべき課題ももっている。一つには、IT化の波に乗ってそこからの利益を受けることのできる人々と、そうでない人々の間に格差が生じる。これを「デジタル・デバインド」とよび、豊かな階層、学歴の高い人々、年齢の若い人々は情報化の利益を多く享受できる反面、それ以外の人々が取り残される恐れが指摘されている。

もう一つには、インターネットを利用した情報犯罪の問題がある。たとえば、インターネット取引を利用した詐欺行為など、これまでもインターネットの場以外で行われていた問題や犯罪行為がIT化社会でも発生する。ここで重要なことは、インターネットの世界においても社会的な決まりを守り、個人の人権やプライバシーなどを保護する仕組みをきちんと整備することである。同時に、IT独自の問題も生まれている。たとえば、コンピュータ・ウィルスやワームの被害がある。

こうした犯罪や問題行為は絶えることはないであろう。いかにして、社会として防止の手段を考え、被害が発生したときの対処を適切に行うかということが重要である。だがIT犯罪は、より高度な情報通信技術が関係していることであり、それゆえに問題がさらに複雑となっているといえよう。

以上のように、情報化・IT革命・社会的影響などを議論するときには、世界的な視点から、具体的な事実を的確に捉えて考察することが重要となり、地図帳などの資料を是非とも参考にしなければ、正しい学習・教育は不十分になってしまうであろう。同時に、複雑化する今日の世界の動きを捉えるために、社会・政治・経済などの動きを詳細に説明した解説や資料図が地図帳にも求められている。